



利用いろいろ【ナンテン】の木！！

冬になり木々の葉が落ちるころになると、ナンテンの赤い実が目につくようになります。メギ科の常緑低木で、幹は太くなりにくく株立ちになることが多いです。葉は枝先に集まり多回羽状複葉で互生します。春 6 月ごろに枝先に大きな円すい花序をつけて白い花を多数つけます。秋には赤や白の実を付け、冬の食糧源として鳥がついばみに来ますがあまり美味しくないようで、食べるものが無くなったところに食べに来ています。果肉の部分には発芽抑制物質があり、鳥に食べられて、フンとして排出されることで発芽するようになります。



日本人にはなじみが深く、昔から「難を転じる」縁起の良い植物として、また薬用植物として利用されてきました。葉や実は民間薬として利用されてきましたが、現在は有毒性があるために専門医の処方があります。果実は「南天実」（咳に効くのでノド飴に入っています）、葉は「南天竹葉」（健胃、解熱に使用されます）と呼ばれます。今でもナンテンの葉を赤飯の上のせる風習があります。これは葉に含まれるナンジニンという成分が赤飯の水分と熱で変化し、腐敗を防止する成分が微量発生することを利用して使っています。お祝い事の時には葉を表向きに、悲しみの時は葉を裏向きに赤飯の上に置きます。ナンテンは全草に有毒成分が含まれていますが、直接食べなければ大丈夫なので、このようなさりげない風習は残ってほしいものです。果実にはアルカロイドのナンジニン、根にはベルベリンもたくさん含まれています。このベルベリンは材にも含まれていて、剪定した時の幹のきれいな黄色はこの成分から来ています。染料にもなりますが色褪せが早いようです。材は床柱に大変珍重されますが、ナンテンはまがりくねって太くなりにくいので、実際ナンテンの床柱というものは少なく、違うものの材である事が多いようです。

庭木としては玄関や門前に植えて邪鬼を防ぎ火難を避け、鬼門の方向に植えて厄が入ってこないように今でも植えられています。昔は元服の式に挿花にして床に飾ったり、安産の願いを込めて床の下に敷いたり、また「南天手水」と称して、手洗いに水のないときにナンテンの葉で手を清めたりもしたようです。正月の花材としては今でも人気です。古典いけ花から現代いけ花まで幅広く使われますが、水揚げは悪い方で、つめたい水を使わずに新聞紙で葉や実を包んでからぬるま湯で水揚げすると良いようです。

当館ではナンテンの実をリースに入れて飾っています。実の色があまり褪せないで、長く楽しめています。

（文・写真 奥井 里美 相談員）

12月の花とみどりの講習会

【クリスマス飾る寄せ植え】

日時：12月10日（土）10時～12時
場所：花とみどりの相談所
講師：渡辺 弘康さん（府立園芸高校教諭）
定員：24人 費用：1,400円
申込：12月3日（土）9時15分～ 電話可
内容：ガーデンシクラメンなどを使った
寄せ植え作り



【お正月を祝う盆景づくり】

日時：12月17日（土）10時～12時
場所：花とみどりの相談所
講師：彌重 定さん（全日本小品盆栽協会副理事長）
定員：24人 費用：2,200円
申込：12月10日（土）9時15分～ 電話可
内容：松や龍のひげなどを使った盆景づくり



これまでの講習会の様子

リース展

花とみどりの相談所では、11月17日から12月3日まで「リース展」を開催しています。日ごろから、当所を中心として、みどりのボランティア活動に取り組まれている「豊中緑化リーダー会」の皆さんにより制作された作品を展示しています。個性豊かな、色とりどりの作品を展示していますので、ぜひ一度お立ち寄りください。



※昨年の開催状況

花とみどりの相談

相談時間は、**火曜日・木曜日**の午後1時から4時30分までです。
電話による相談も行っています。
《12月の休所日》 毎週の日曜・月曜日です。
※年末年始（12/29～1/3）は、休所します

お気軽にどうぞ！



豊中市 花とみどりの相談所

〒561-0804 豊中市曽根南町1丁目4番1号（豊島公園内） 阪急宝塚線 曽根駅南 徒歩5分
TEL 06-6863-8439 FAX 06-6863-3638